



H22.2 広島市立古田中学校

## 1月29日に学校保健委員会が行われました・・・

内容の一部を紹介します。

### A. 定期健康診断の結果と考察

#### 1. 身体測定の結果(体位の平均)

##### ① 学年毎の平均

		身長(cm)		体重(kg)		座高(cm)	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
1年	本校平均	↑153.2	151.8	41.9	42.1	↑81.9	↑83.7
	県平均	151.8	151.2	44.4	44.2	81.2	82.0
	全国平均	152.6	152.1	44.5	44.2	81.4	82.2
2年	本校平均	↑160.1	154.3	48.2	45.4	84.8	↑84.5
	県平均	159.3	154.6	49.4	47.5	85.0	83.8
	全国平均	159.8	155.1	49.5	47.7	85.0	83.8
3年	本校平均	163.9	↑156.9	51.2	↑50.6	↑88.3	↑85.8
	県平均	164.7	155.6	54.8	50.2	88.0	84.5
	全国平均	165.4	156.6	54.9	50.4	88.2	84.9

※県平均・全国平均は20年度学校保健調査によるものです。

### 5. 歯科検診結果

学年	受検人員	永久歯							
		う歯のある者		処置歯数 (a)	未処置 歯数(b)	喪失歯数 (c)	う歯総数 a+b+c	処置完了 歯数(%)	要観察 歯数
		処置 完了者	未処置者						
1年	261	23	41	70	87	11	168	41.7	143
2年	279	30	75	145	192	15	352	41.2	150
3年	211	21	57	118	119	28	265	44.5	226
合計	751	74	173	333	398	54	785	42.4	519

#### < 歯科検診の結果より >

歯科校医の藤原先生が、「処置完了歯率(42.4%)が悪い。歯周疾患も増えているので、虫歯や歯周疾患のある生徒は、部活動より、治療を優先してほしい。」

という話をされました。中学生は、毎日部活動などで忙しいと思いますが、健康第1です。虫歯は自然に治りません。どんどんひどくなるので、早めの治療を心がけてください。

## 《かぜ・インフルエンザ・花粉症の違い》

	かぜ	インフルエンザ	花粉症
原因	ほとんどがウイルス(200以上の種類がある)	インフルエンザウイルス	主にスギやヒノキなどの花粉(他の植物の場合もあり、1年通してみられることもある)
症状	くしゃみ、鼻水、せき、のどの痛みなどが中心で、熱はあっても高くない、関節痛などはあまりみられない。	38~40℃の高熱、寒気、だるさ、関節痛、頭痛などが急に強くなる。	くしゃみ(続けて出る)、鼻水(サラサラしている)、鼻づまりだけでなく、眼のかゆみ、涙、充血などもみられる。
予防や対策	★外から帰ったら手洗い・うがいをしっかり行う。 ★栄養と睡眠を十分にとる。 ★こまめに部屋の換気をし、加温や加湿も行う。 ★流行期には人ごみを避ける。 ★マスクをつける。		花粉がある場所に、なるべく近づかないようにする。 ※マスクやメガネ・帽子などを着用 ※洗顔やうがい ※こまめな掃除など

\*あくまでも一般的な症状例です。

古田中は2月10日現在、インフルエンザで欠席している生徒はいません。

しかし、感染性胃腸炎で、欠席している生徒がいるので、気をつけてください。花粉症でしんどい生徒も何人か見られるようになりました。予防をしっかりとしましょう。

## 《低温やけどについて》

この季節は、使い捨てカイロやホットカーペットなどを使用する機会が増えると思います。暖かいと、気持ちよいと感じる程度でも、同じ場所に長時間接触しているとやけどをすることがあります。これは、「低温やけど」と呼ばれます。低温やけどは、表面はあまりひどく見えなくても、実際は皮膚の奥深くまでやけどが及んでいるなど、見た目より重傷のことがあります。

使い捨てカイロをそのまま直接肌に貼ったり、同じ場所にあて続けないようにしましょう。またホットカーペットの上では、長時間眠らないようにしましょう。  
<低温やけどを起こす原因となりやすいもの>

- ・使い捨てカイロ、ホットカーペット、湯たんぽ、ファンヒーター、電気毛布など・・・